

いぶし銀の志村太賀 ワンランク上がった柿澤大貴 5月の当所F IでS級初Vを果たした末木浩二



昨年10月の関東地区プロ自転車競技大会。新潟支部（新潟、長野、山梨）の活躍は目覚ましかった。

1 km TTで菊池岳仁、4 km個人パシユートでは宮下一步、そして志村太賀、末木浩二、菊池が組んだチームスプリントで優勝。これらの勝利が出場権につながる寛仁親王牌。G Iに新潟支部の選手が6人も参加するのは異例だ。昨年の弥彦記念でも6人でしたから。

志村はチーム新潟支部のムードメーカー。山梨の男子選手は14人いて、S級の選手が5人。新潟は25人で4人、長野は13人で2人だから、S級率は高い。雰囲気があるのやる気と与える役割は大きい。その意味だけじゃないけど、志村の存在はなくてはならないものだ。びつくりしたのは38歳になっていたこと。弟子の末木を目標に、3年前の日本選手権以来になる、G Iの1着はある！

昨年10月の寛仁親王牌（前橋）は補充で走った柿澤大貴。実質的

に今年2月の全日本選抜が初のG I。続く5月の日本選手権にも参加して、4走目にG I初勝利を挙げた。現在は32歳の彼。成績に変化が現われたのは2019年の11月あたり。昨年2月の岐阜でF I初優勝。波はあったが、この6月からまた上がってきたぞ。

末木は9月の共同通信社杯がG II初出場。「今回、この雰囲気少しでも慣れて、地元のG Iに備えたい」と。まだこのクラスでは戦えないと言っていたが、2日目にアツと驚くイン粘りで1着。初めて見た。5月の当所F Iで、逃げた菊池の番手から抜け出してS級初優勝。検車場へ引き揚げてきた彼は、「嬉しい」と誰に言うでもなく、小声で何度もつぶやいていた。この9月で30歳になる。

▽弥彦競輪 寛仁親王牌

世界選手権記念トーナメント

地元選手プラス1 第2話

【新潟スポーツ 信氏 忠】

